JID

JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

'63 7号

——————10月　月報目次——————

1. 個性的なイタリー、温かな北欧
　　—東京支部月例会—
2. 「米国における木工場」について
　　—大阪支部月例会—
3. 大阪支部委員会開く
4. ヨーロッパ視察報告
　　—白木屋、武笠氏、内藤氏—
　☆ めざましいショッピングセンターの進出
　☆ 各国の工業デザイン
　☆ 古代の姿をそのままに
　　＝北欧の古代村落＝
　☆ ヨーロッパデザインの現況
5. 会員の近況
　　—編集後記—

個性的なイタリー，温かな北欧
１０月例会　欧洲視察団の報告

１０月４日都道府県会館で開かれた月例会は，協会初の試みである欧米視察団の帰国報告会として開かれ，渡欧の諸氏から大要次のような報告及びスライドがありました。

この日はセイロンに行かれる白井一朗氏（当会員・九州産工試）を初め次の３２名が出席されました。

尚，アメリカの報告は次回に行う予定です。

出　席　者　　荒川，榎田，長，泉，岩永，岩瀬，加藤，狩野，梶，小林(保治)
楠本，武笠，水谷，宮内，内藤，中井，中村(圭)，岡本，大泉，
鈴木(栄二)，白井，佐々木(英二)，斎藤(英夫)，玉田，渡辺(優)，
渡部，山口，原田　　他　三越２名，三葉工業１名

於　　都道府県会館　　P.M.6.00 ～ 9.00

会はまず，理事長選挙の結果狩野雄一氏（千葉大）が理事長に就任したむね山口支部長より報告がありました。　狩野新理事長より『大役をはたすためには協会は会員自身の会であるという認識の上に立つて皆さんから部会等を通じ会の運営に対し積極的な提案をしていただき，その上にたつて運営したい』と挨拶があり引続き次の様なヨーロッパ視察報告がありました。

狩野団長報告

３０日間に１０ケ国，１ケ国平均３日というつめこんだスケジュールで，本当のところ速度の文明に対する悲哀を感じました。ローマ，フローレンス・ベニス，トリノ，ミラノ，チューリッヒ，パリー，ロンドン，アムステルダム，フランクフルト，デュセルドルフ，コペンハーゲン，オスロ，ストック

ホルム，ヘルシンキ，コペンハーゲン北極廻り帰国という日程で，言葉や通貨のめまぐるしい変化にも大変神経を使いました。今度の旅行を一口に云えば，イタリアを中心とした古い文化と，北欧四ケ国を中心とした新しい文化の対立を感じたという事です。　パリーで開催されていたＩＣＳＩＤ（国際工業デザイン展）にも，この対立が明らかにあらわれていました。

（註　ＩＣＳＩＤ　International Conferece Society Industrial Design の略）

ＩＣＳＩＤの日本の出品はＪＩＤＡ（日本インダストリアル・デザイナー協会＝ＩＣＳＩＤ会員）が担当し第一室に展示されてあり，カメラ，テレビ，ラジオ等のいわば工業機器類が中心でしたが，展示全体にかたい感じを受けました。すなわちわが国では工業デザインの範囲がかなり狭いのではないかと思われます。　欧洲では，I.D. の範囲は生活用品全体を含むという考えで家具やカーテン，食器，クラフト等が半分位をしめています。今後は当協会やクラフト協会がＪＩＤＡと協同して参加したなら更に良い展示ができると思われます。　前にも述べました北と南の対立ということは，一口にいえば次の様な物だと思います。

① イタリアを中心としたデザインの山脈

民族的，歴史的なものからにじみでる個性的なデザインで，皮細工，ガラス工芸，インテリアデザイン等に新しい試みを行つているデオボンテの家具デザインなどにそれをみることが出来ます。

② 北欧を中心としたデザインの山脈

北欧の生活からあふれでる温かな合理性と国際性を持つたデザインである。

独，仏，英はあまり目立つたものはありませんでした。

☆各地でニュータウンの建設☆

ヨーロッパ全体（アメリカも同じ）に云える特長としては，ニュータウンの発生ということでしよう。ローマ，パリー，アムステルダム等，色々なところで見られましたが，ストックホルムの場合には「住宅」「商店街」の外に「職場」も含めた綜合計画を行つています。４．５年前より盛んに建設を行つていますが，世帯増のためにまだ住宅難は解消しないようです。

☆良いものを普及する努力☆

もう一つ目立つたことは，各国とも新しいデザインの商品の普及開拓に非常に努力しているということです。英国ではＣＯＩＤ（Council of Industrial Design）という半官半民の団体が中心となつて

1. 英国工業デザインの確立
2. よりよい工業製品を生産する
3. 一般的生活水準の向上
4. デザイン教育の普及
5. 出品者を向上させること

等の事業を行い，ロンドンの中心街にデザインセンターを設け良いデザインの商品を選定して消費者に使つてもらうよう働きかけています。このセンターは１９５６年に設立され，利用者も多く大変成功しているように見えました。　ここに集められているものは，家具，衛生陶器，照明器具，織物，工業機器，建材等で範囲も広く，ファイリングで整然と整理されたインフォーメーションルームがあり輸出商品の紹介等にも役立つています。　オランダの「ＲＡＡＤ」という組織もこの英国のＣＯＩＤと同様な組織仕事をしていました。この外，オランダでは政府の教育情報局の中に住居に関する仕事を

担当するところがあり，都市計画や住宅の間取り，家具の配置等を整理し新しい住宅の住い方の教育指導等を行つていたのが注目されました。
更に北欧四国では民間の組織としてScandinavian Design Cavalcadeがあり，ここの推薦のマークがついた商品が秋の展示で四ケ国のあちこちの商店のウインドで同一価格で売られていました。　要するに，良いものを普及させる運動が各地で強力にキヤンペンされており，日本もこの点，学ばなければならないと思いました。世界のデザインという点から考えると前記ヨーロッパの二つの山脈がある外にアメリカのイームスやネルソンなどを頂点とする一連のデザインがあり我々は今後どう行くべきか，色々な問題を投げかけられていると痛感いたします。
それと，工業デザインの受取り方，これは少し反省すべきと思います。

☆ 水谷文平氏のスライド ☆

ユーモラスで独特な解説で各国のお金の大きさの比較を始め，

1. イタリー　　カラカラの浴場，馬車
　　ヴィナスの誕生（あこがれていた程ではない）
　　中世の壁画（これは大変良い）
　　ベニス＝裏町風景
2. パリー　　ルーブルの絵画と女性　　モンマルトル
　　セーヌ河畔
3. デンマーク　　ヘルシノアの城（ハムレツトの城）
　　新しい街づくり
4. オランダ　　船
5. ホテル　　１６回変つたホテルのインテリア，特にコペンハーゲン

のロイヤルホテルの室内，シヤワー，金物等

☆ 武笠士郎氏のスライド☆

ブルノムラジの研究室

ミラノセンターのディスプレー

商店のウインドー

☆ 内藤正哉氏のスライド☆

デンマークの古代村落の建築・家具

☆ 岡本賢三氏のスライド☆

1. イタリー，フランスを中心とした，ゆつたりとした伝統的な織物
2. 北欧のモダンな織物，日常生活を基礎にしたデザイン
3. 独のレース，特に北欧も独もカーテンやレースを窓に花を置いたりして楽しみながら仕立てる姿
4. 各地の裂地やカーテン，ウインド等

☆ 狩野雄一氏のスライド☆

ストツクホルムの風景

北極，アラスカの風景等

大丸木工 常持 敦氏の「米国の木工場」について
大阪支部　９月の月例会

昨年４月２５日より約１ケ月半米国ノース・カロライナ大学教授だつた故ジョンソン氏の遺志により同氏の紹介で木工業者たるマルニ木工，呉船木工，広島工業指導所，松下キヤビネツト工場，コスガ工業，安井工業，日産プロ木工，千葉大，天童木工，大丸木工等より１５名が渡米，ノースカロライナ州，テネシー州の約１３のプロデブコ社の息のかゝつたマス・プロの木工場を視察した。

米国の木工界というより家具工業の現況は，他の産業のようにマス・プロ，オートメ化は原材料の制約によつて非常に困難で出来ないが，その制約より何とかして脱却し，オートメの方向に向つていて，少くとも日本の吾々のような別註工場より数段進歩したものであつた。それは単純化であり，標準化され，専門化されている。

例えば，家具工程でオートメ化の困難な木取りは，此等のマス・プロ工場にはなく，所定の寸法の木材を木材店より購入し，乾燥場も殆んどなくて，乾燥工程は木材店で行つて居るし，プレス工程さえ，プレス専門の工場で行つている所が多い。プレスの場合でも，その材料は自社で木取りするのでなく木材店に所要厚，サイズにより購入しそれを一組にして購入，プレス機にコンベヤー方式でかけるだけである。

このように家具工場も単純化，標準化，専門化により家具が量産化され，日本の如く多種少量でなく，少種多量になり１ロットが１００～1,０００ 平均約５００位づつ生産され，マス・プロ生産となつている。

そして，家具工場は統合され巨大化されている。

米国における家具のデザイン的傾向は，クラシツクが非常に多く，モダンなのはほんの少ししかない。クラシツクといつてもコロニアルより出たアーリー・アメリカン・スタイル・フレンチ・プロビンシアル及びイタリアン・プロビンシアル等で，米国でのモダンと称するものはコンテンプラリーなものとスカンジナビヤ・コンテンプラリーとである。米国に於いても一時モダンなもの北欧調のものが流行したが，これが一応行き渡つた為，大産業となつている家具工業は，その商業的政策上，クラシツクを一つの流行として流し，又米国という国柄上，新興国，歴史の浅い国であるため，潜在的に古い物に対する憧れが非常に強く，古典を作ることに傾注して居，又，米国人が移民民族の為，故国の古い物に対して憧れているのに乗り，更に此のクラシツク調を作るのに良い原材料ポプラの発見により，このクラシツク調が大流行となつている。

もつとも，このクラシツク調も米国では，古い家具の復元ではなく，新しくデザインされたものだと言つている。　此等のクラシツク調の家具の殆んどは，ランバー・コアー材はポプラであり又表面化粧材はウオールナツトを使つているが，その他もポプラが多い。　此のポプラは朴によく似た材で，国内に多量に産し，化粧材のウオールナツトも国内で産出され，北欧調家具に多いチーク材の如き輸入材でなく，ケネディーのバイ・アメリカン政策にもマツチしているのである。そしてこのポプラ材をフルーツ・ウツド・フィニツシユ（濃いアンバー色）以上に仕上げ，材の変化による誤差をなくしている。モダン家具の工場としてはハーマンミラー社とデンマークの家具部品組立工場のダツクス社（ニューヨーク）とが大きな工場である。モダンな事務所建築に入れる家具は勿論モダンな家具であり，此等は別註家具であるが，その％は非常に少く，家庭用の家具の９９％は上記の既製品のクラシツク家

具で，日昼勤める事務所が近代的であるだけに，家庭の家具がクラシックになるのもうなずける。

此の米国に於ける傾向，家具工業界の動向より見れば，日本の家具工業界は未だ工業界とは言えないだろう。然し，現在の手工芸より次第に量産工業に向い，小工業より大工業，別註製品より既製品へ，一品設計よりセレクトへ向うのではなかろうか。

定款改正，公報部設置を審議
大阪支部　委員会

定款改正審議

東京支部案の改正重要点のみピック・アップ審議し，これを東京支部に連絡，最終的には理事会にて決定，総会にて承認を得る事に確定した。

- 第１０条（会費の滞納）者を本条で「権利停止」し，第１３条で１ケ年以上滞納者を「除名」していたのを除名を削除し，１年以上で「権利停止」，２年以上で「資格喪失」とする。
- （会員の権利・義務）を新設すべし。（未草案）
- 第１５条（役員の種類）に「副理事長１名」を追加する。
- 第１８条（本部役員の選出）方法を東京案で「委員選挙の高得票者より」決定する如くなつているのを，現在の如く「委員中より選出」の方が可とする。
- 第２０条（役員の任期）を東京案で「２年」を役員の新陳代謝の為，現在の如く「１年」を可とす。

・第２１条（役員の解任）を「総会」でなく「その役員を選出した会議」に改正。

・第２２条（本部の会議）に理事会の外「合同委員会」を設け，各支部間の意見が調整出来ない時開催，理事会及び各支部委員会で構成し，各支部委員会各１票で討議し，全支部の完全一致で決議する。

・第　　条（会議の成立）を「½以上」より「過半数」にし，（議決）も「過半数」とした。

・第２５条（書面表決）は「予め通知された事項」に対して行い文書による表決も出来るようにした。（委任状）は被委任者１名に対し委任状１通とする。この為指名委任の時は必ず被委任者の事前の了解が必要であることを周知させること。

・第３８条（資産の管理）責任者を理事長，支部委員長とし，各管理の実際は理事会，委員会で決定する。

・第45条(定款の変更）は理事会で決し，支部総会で「出席正会員」の「過半数」で決する。

・役員選挙規定を本部・支部一括した。

・仝第１０条（選挙管理委員会）を設け，「監事」が「正会員３名以上」を指名，組織する。

・仝第７条（決戦投票）を要する時，支部委員の場合増員によりこれに代える。

・仝第　　条（通信投票）を設けた。

・経理規定を新設する。

・仝第７条（会費の免除）として，６ケ月以上海外に在る者，３ケ月以上病気療養の者をスリーピング・メンバーとして免除する。

公報部設置の件

9月1日京都東山南禅寺に於ける月例会で樋口委員より提案された本件に関して再び同氏の提案理由の説明あり討議した。

全員協会のP・R の必要性を認めてはいるが専門の部門として公報部が必要なのか，という点で論争され「1～2名の専門部にすべてを委すのは疑問である」「誰か責任者がないと誰かがするだろうと結局誰もしなくなる」の両論に集約され，結局総務部がこれを担当し，更に総務部長樋口氏の指名で事業部の藤川，森岡，村尾，財務部の川崎，事務局の福岡，監事の依田の6氏が協力することに決つた。

ヨーロッパ視察報告

白木屋　武笠士郎氏，内藤正哉氏

めざましいショッピングセンターの進出 ------ヨーロッパのデパート

ヨーロッパの諸都市のデパート事情は日本のデパートから見ると洵にものたりないもので失望させられた。現在本格的なデパートとしての価値と，その意欲を感じさせられたのはイタリーと北欧の諸国である。勿論パリ，ロンドンにもあるが，単なるストアーに近いもので，日本で考えるデパートとしての社会的影響力はない。　唯各都市に建設されているニユータウンの中にショッピングセンターとしてスケール，内容共立派なものが出来始め，今までの旧都心のデパートにとつて変りつゝある。私共が視察した主なデパートをあげると

イタリー	ラ・リナシエンテ	(La・Rinascente)	ローマ・ミラノ
パリー	ルーバー	(Lovver)	
ロンドン	セルフリッジ	(Selfridge)	
ドイツ	カウフホッフ	(Kauf hof)	デユツセルドルフ
ストックホルム	NK	(NK)	
コペンハーゲン	マガジン	(Magazin)	

等で，これ等の一部を特記すると

☆　ラ・リナシエンテ　　イタリー有数のデパートとして古い歴史を有し国内各地に支店がある。ローマ本店は建物も古くその規模も小さいが本年3月に完成した支店（ベルナニーニ広場の近く）は建物の外観，内装及び売場構成共**イタリーモダン**の代表的なもの，特に店内ディスプレーはその売場配置，色彩，展示器具やショーケース類に至るまで

バラエティーに富みイタリーの個性あるモードをその商品共に浮き出している。唯スケールが東京のデパートとくらべて小さく（銀座三越ぐらい）（ローマでは大きい方）デパートとしてのダイナミックな量感には乏しく，この点何か「物たりなさ」を感じた。

ミラノの支店は，ゴシック建築で有名な，ドウモ寺院わきのアーケードショップにつらなつて建つて居り，建物こそ古いが店内はエスカレーター等の設備も完備し完全なモダンスタイルである。広さもローマのものよりはるかに広々とし（白木屋よりやや小さい）店内ディスプレー，特にそのレイアウトに於て殆ど平行直角（建物に対しても）なものはなく，自由なカーブ，斜配列の妙を心にくい程見せつけられ，デパートとしてのスケール，内容共ヨーロッパに於て最大のものと思われます。そして此の店内から受けるムードは新宿の伊勢丹のそれと余りにも類似点が多いのに驚いた次第です。

☆ カウフホッフ　　デユッセルドルフにあるメインデパートで建物は8階建の古いもの（銀座松屋程度の大きさ）此のビルに隣接して同じ8階建のデパート専用のパーキングビルがつくられている。売場等の本来のデパートとパーキングビルの比が4：1はあると見られ，パーキングビルとしてもヨーロッパで見た最大のスケールで道路よりランプ型式（傾斜をつけた通路で上にのぼつて行く）で8階まで自動車で昇れる。各階のパーキングフロアーより車を降りて売場に行けるように試みられている。東京に比べればさほどパーキング難とも思われぬが車のまますぐ売場へ乗りつけられる点と，東京の様に復興工事をしているデユッセルドルフの今後起り得るパーキング難を予測しての事とも考えられるが，いかにもドイツらしい合理性と計画性を感じた。

店内のディスプレーは特に珍らしいとも思えないが（配置も東京に似ている）プラカードの様に柄がついて丁度目の高さぐらいのところに（物により高低はあるが）何色かの色どりをつけて，大変きれいで装飾的な効果も出している。此のプラカードを見ているうちにふと気がついた事であるが，価格が単純化されている事で，例えばハンドバッグなら10マルク，13，15，18，20，25，30各マルク　1ドル＝4マルク故1マルクは100円弱である。又，婦人服なら60，70，80，100マルクと極めて明解な数字のみで端数はついていない。切り上げ切り捨てなのか，仕入機構がそうなつているかは知らぬが商品数に比しプライスカードも少なくてすみ又，スツキリして見える。伝票整理も簡単であろうし，私共は「棚卸しが楽だ」と笑い合つた。これらドイツの合理性と能率的な面を見せられた気がした。又ドイツにはデパートの共同仕入機構が発達して居りデユッセルドルフにあるドイツの代表的なHorte　共同仕入機構センターを見学した。旧市街とニユータウンを結ぶ高速道路の中間に広々とした敷地を取り（あたりは郊外の草原）モダーンな建物で集荷と各デパートの配送等すべて自動車での荷動きが機械の様に構内に設けられた立体的な道路により整然と行なわれている。私共は此の機構内容は専門以外の事で詳細は知り得ないが，ドイツのデパートがＥＥＣ経済圏の確立にそなえての一つの対策ではなかろうかと思つた。

☆　ＮＫデパート　　ストツクホルムの中心街にあり古い建物で内部は新しく改装されている。広さも白木屋より一まわり小さい程度（８階建）北欧では有数のものと思われた。此のデパートの特色は宣伝が極めて盛んなことで，NK と云うマークで空港ビルにも売店を持ち，道行け

は必ずNK マークが目に入るといつた具合で，ヨーロッパでデパートの名をこれほどアッピールしているところはなかつた。入口を入るとソファーが3方に列んで中央は吹抜の広いホールで，ロビーの雰囲気を出している。店内は割合スッキリして居り余り装飾的なものは見あたらないが，商品が極めて豊富で，ＥＥＣの代表センターという感すらある。日本の玩具，アメリカの雑貨，イタリーの靴，そして北欧独特の毛皮製品等，何となく日本のデパートに似ている。　インテリヤ部門にも力を入れており，此の店にはI·D の設計室もあり，独自のオリジナル製品を打ち出している。家具売場もスペースを広くとり，その内容も北欧調のグッドデザインが多数，それぞれのムードを（部屋としての）取り入れて陳列されている。展示の仕かたから見ると，ヨーロッパは共通に単品の家具としてより何点かの家具の組合せによる部屋や又使用目的に合う様なムードをつくり出して居り，照明，しきもの，壁かけ等自由に使用され，このムードを強調する展示法が習慣になつているのか，モデルルームのような本格的なものではなく，ごくあつさりと洵に巧みに構成されている。この展示法は，私共も大いに学ぶべき事であろう。

以上が主なデパートについての簡単な説明であるが，更に２・３気づいた事をあげると

☆　売場の中央に案内所　　ラ・リナシエンテの場合（ローマの新しい支店）店内案内のカウンターが出入口になく売場のほぼ中央に設けられている。店内の各売場の見通しもよく一ケ所でする為，人員も数少くてすみ，且立派なカウンターになつて居り，パンフレット等も豊富にそろえてある。ここでローマの地図入のパンフレットをもらつたが，

地図上に此の店の位置と，別にある本店の位置をマークして教えてくれた。別にたのんだわけでもないが私共を観光客と見ての事であろうが，きわめて自然で好感がもてた。又各出入口には大きな文字で1.2・・・・とナンバーがつけた表示がしてあり初めての客にも出入口で迷わず，又待ち合せにも大変役立つた。

☆ 通訳用インターフオン　　ヨーロッパのデパートは各国の客が来る為その言葉の解決には種々と工夫されたものを見かけた。（英語は店員には余り通じない）その一つにこの通訳専用のインターフオンがある。売場の所々に設けられ言葉が通じないときその客をインターフオンの前へ連れて行き，その国語の通訳を呼び出し，客―通訳―店員と速かに処理されていた。通訳の人員も少くてすみ，又時間的にも無駄がはぶけ，オリンピックをひかえた外人対策として便利な試みではなかろうか。

☆ ムラノの硝子　　イタリーに於ける工芸ガラスの代表的なもの，世界的に「ベニスのムラノガラス」として名声を博している。

私共はその製作過程を見学すると共にそこでつくり出された数々の工芸ガラスのショールームを見た。小はペンダントから灰皿，花ビン，動物をあしらつた置きもの，そして大はシヤンデリヤに至るまで，イタリーのもつ永い伝統の中から生れて来る品格の高いもので，その一つ一つにイタリアンカラーがにじみ出ている。

各国の工業デザイン

1. 個性的なイタリー　　イタリーの建築及びそれにともなうI・D・関係の視察は，私共の最も期待したものである。ローマ近郊のニュー

タウン（ニューローマ），又ミラノ，トリノを中心とした北イタリーは，洵にデザイン活動も活気を見せ私共に新鮮且つ強烈なデザイン的イデオロギーを感じさせた。特に**ムナリ**氏（Brvno Munari）‥‥近代イタリーのI．D．関係の中心的な人‥‥‥にその自宅兼スタジオでお目にかかり，現在，氏を中心として活動するイタリーの新しいJ．D．製品の説明を受けた。又そのスタジオにある「デザイン上の素材」ともいうべき各国から集められた品々の中に日本からのもの（民芸，郷土玩具等）も数多く見られ，イタリーのニューデザインの中に日本から素材を求めたものが意外に多い事を感じた。尚日本の若いデザイナーが数多くMunari氏に師事し，デパートとしては高島屋のロジエコーナーにその作品が出品販売されている。

ジオポンテ（Gio Ponti）‥‥‥近代イタリーを代表する建築家‥‥‥のI.D.関係のショールーム（ジオポンテの娘さんが中心にやつている）に於ては，イタリーのI.D.デザイナー達，例えばメンギー，サムーゾ等のデザインした各種の家具，アルビーニ，カルサス等のイタリアンモードを強くおし出したI.D.製品には，形態，色彩等きわめて新鮮なものを感じると共にイタリーの個性的で独創性あるデザイン傾向をよみとる事が出来た。I.D.を世界的な視野に立つて考えるとき，イタリーデザインの研究こそ最も重要なものの一つであることを痛感した。

イタリーに於ける量産製品（インテリヤ）もオリベッティ（Olivetti）を中心として，そのノックダウンを金属で明快に解決された製品（机イス等）を多く見かけ，イタリーの自己消費と共に輸出品として活潑に製産販売されている。此のオリベッティーの家具はアメリカのハー

マンミラーと共にヨーロッパ全土に販売網を持ち各国で広く使用されている。

2. 世界的なI.D.展＝パリー　本年はフランスが当番国に当たる為パリーのルーブル博物館で催された。I.C.S.I.D.の展覧会は各国よりその新しいグッドデザインのI.D.製品が展示され（展示会はフォームスFormesと称する）インテリヤも多く見かけた。会場を一巡すれば，現在に於ける世界各国のI.D.の傾向とそのあり方が理解され世界中より此の催しのため多数のデザイナー及び見学者が集つていた。こゝで発行された型録及びその他の資料は大変参考になるもの，後日これにもとづき更に研究したいと思う。

3. 熱心なデザイン行政

• R.D.I.（ローヤルソサイティ・オブ アート）・・・・・ ロンドン

英国に於ける民間の美術I.D.全般を含む団体として，18世紀からの伝統をもつている。世界各国より約7000人の会員を有し（日本人は市田八重という京都の染色家のみ）英国のI.D.の向上，特に若い世代の育成に力を入れている。主な仕事として

① 毎年国内デザインコンテスト――これは英国人のみ応募出来るもので年令別になつている。入賞者には賞金のかわりにヨーロッパ各国にデザイン研究旅行をさせる。

② 会員の親睦を主目的として，その研究発表会等も行なわれている。

私共は英国のI.D.関係の組織を知るため，ここを訪れたが，英国の保守的な思想はこの組織の中にもうかがえ，英国のI.D.向上の為の努力（これは見方によるとヨーロッパで最も熱意をもつているように見うける）が英国人のみを中心に考えられているため同じヨーロッパ

にあり乍ら他の国にくらべ何か一人ずもうをしている感がある。次に述べるC.O.I.D.のデザインセンターで見たI.D.作品にもさして優れたものは見当らず，ヨーロッパに於けるI.D.特にインテリヤ部門の英国の弱体ぶりを知つた次第です。

• COID（デザインセンター）・・・・・ ロンドン

このデザインセンター（通称コイドといいピカデリーにある）は，英国の政府，民間半々の出資により運営されて居り，英国工業デザインの確立を目的としている。そしてこれはよい工業製品をつくる事とそれにともない英国の一般生活水準を向上させるためである。センター内には英国に於けるデザイン研究のための資料が分類整理されて居り（インフォーメーション組織）市民が自由に此のセンターを利用することが出来る。此処に展示されているものはI.D.全般にわたり特にインテリヤもその一部として割合スペースも広くあつかわれている。常に1,000点位展示されているが，その内容は「英国の工業製品の中でデザインもよく且つ市場性のあるもののみ」を選定してある。「最近特に海外市場に向くような製品で漸新なデザインのものに力をそそいでいる」との事である。尚一部に英国以外のオーバーシーのセクションもあり日本から柳宗理等が出品している。此のセンターは，1日平均入場者2,500人，多いときは6～7,000人になる由（無料）英国に於てはインテリヤのグッドデザインは中々育だたず現在もその点他国に比し大変立ちおくれている事は、このセンターのインテリヤを見てもはつきり感じられ，又このセンターでお目にかかつた，前に白木屋の英国展の出品選定をされたハリー女史も認めていた。このことは先に書いたRDIで感じた事と共に英国が自から自国のI.D.の

立ちおくれを認め政府民間一体となつて，主に若い世代のデザイン教育に他国では見られぬほど力を入れているのを知り敬服させられた次第です。

（尚，COIDのインフオーメーション組織はたえずグツドデザインの新しいものを展示し一定期間後はそれを写真と共にフアイルされ，誰にでも見せ参考としてデザイン研究の一助にするという方式をとつている。その資料室は若いデザイナー達で大変こんでいた。しかし後記のオランダのR.A.D. のように市民の中に溶けこむまでのものではなく，グツドデザインを育てる事が中心になつている）

4. 市民にとけこむデザイン運動＝オランダ

オランダのI.D. 組織は一見英国に似ている面もあるがその内容を検討すると甚だ興味深い性格的な差を見出し，これは私共デパートとしてのI.D. 関係のあつかいに大変参考になるものと思われた。私共は英国の場合と同じように先ず工業デザイン協会を訪れ此の国のI.D. に関する一般知識を得ると共に、インフオーメーション・デザインセンター（R.A.D.）を視察し，オランダI.D. の概要を知ることが出来た。

・工業デザイン協会（Institute of Industrial Design）

この協会はオランダ民間のI.D. 組織で，その主な目的は

① I.D. 活動をする上の名デザイナーの親睦

② オランダ政府に対し，デザイン活動をする上のよりよい理解と活発な助言を与える。

③ I.D. 製品の輸出に関するメーカー，デザイナーへの助言，指導

④ オランダ全国民の生活向上のためI.D. を中心としたP.R. によ

り政府及び国民によりよい刺激を与える。

以上①～④等よりなつており建築及びその他のI.D.関係の２５人のメンバーで運営されている。そして，ここのショールームは，後記のR.A.D.のセンターと共に，オランダのI.D.に関する活動が意外に新しい考え方のもとで行われていることを知つた。　この協会のショールームは主にオランダのグッドデザインを集めてあつたが，他のデザイン国に比しそん色なく且つ特有の郷土色を良い意味でニューデザインに生かしているところ等大変すぐれたデザイン国としての将来性を感じた。

• インフォーメーションデザインセンター（R.A.D.）

オランダ政府の補助のもとに出来ている半官半民のI.D.センターでその組織は英国のＣＯＩＤに似ている。此のセンターではオランダのグッドデザインは勿論，各国のI.D.製品が展示即売されている。

このセンターの目的は，オランダの国民すべての住生活向上のため，今までの古い住い方を改め新しい住生活のあり方を教育すると共に，具体的な部屋の模型や実際に新しい住生活に使用さるべきI.D.製品の展示により此のセンターを一巡するだけで素人にも簡単に理解され，すべての人がこのセンターを新生活をする上のよりどころとして新しい文化的生活環境を整えられる様各種の設備がそなわつている。即ち此のセンターに展示されるI.D.製品はすべてその写真と簡単な説明を付した大名刺ぐらいのカードにして種類別に分類整理され，センターの入口近くにかなりのスペースを取つて誰もが手軽るにその好みに応じて選択し，このセンターで購入することが出来るようになつている。その内容もあらゆるI.D.製品を含み特にインテリヤに力を入れ

ている様に見うけた。常時１０００点以上展示され一定期間後はカードのみ残して置くようになつている。尚カードは一種のＩ・D・製品に対してすべて１００枚近く常備されその種類は数千点にのぼると思われる。又裂地，内装の壁紙，床材料等色彩を伴うものは別にフアイルされ同様公開されている。

このシステムで最も重要とされるのは，これ等のカードやフアイルされた各種参考資料を展示されている製品と対称させ作ら，良いアドバイスをして一般顧客の要望に答える点で，その為常時数人のＩ.D. 専門家がこのセンターのインフオーメーションデスクに居り，新しい部屋づくりの相談に懇切丁寧にアドバイスしている。そして展示されているＩ・D・製品を選択させ，又推奨して即売している。

私共は此のセンターの雰囲気が市民の生活感情にとけこんでいて，英国のＣＯＩＤ等とは違つた親しみと豊かで暖かい感情が流れているのを感じた。又展示内容もバラエティーに富み，国民全体の住生活をより豊かにするため，このセンターのシステムをつくり出したオランダのＩ.D. 関係のあり方こそ，その内容手段に於いて，他のヨーロッパ諸国に比し一歩前進した新しい行き方の様に思われ大変興味を覚えた。即ちＲ.A.D は国家的スケールのホームコンサルタントであり，これは私共のデパートで活用出来るものと思う。今までのグツドデザインコーナーが英国のＣＯＩＤの様などちらかと云うと「これ見よがし」の一種の気取りがあり一般市民との融和性に乏しい冷たさを感じるのに比べると，Ｒ.A.D の性格を生かしたホームコンサルタント式のＩ・DのＰＲ及び販売の場こそ，今後デパートとして大いに取り入れてよい行き方であろうと思われる。

5. バウハウスの本場＝西ドイツ

西ドイツのI.D.組織としては，ドイツ工作連盟と，ドイツ工芸協会があるが，私共はドイツ工芸協会を主に訪れた。此の国のI.D.組織も英国，オランダと同様に民間団体として運営され内容も似ている。此の協会の選定になるI.D.製品を展示しているショールーム・ローセンタールスタジオを視察した。此のスタジオで先ず感じた事はドイツの個性とも云うべき合理性と科学国らしい新材料を取り入れた材質的に新しい製品の多い事であつた。スタジオ内部も新材料で出来ており，オールプラスチックで出来ている階段や，中央に設けられた池の中には金属製の水中照明器具，又スチールやプラスチックで成型された椅子，特にスタッキングとノックダウンの妙味ある製品等を見るにつけ，やはりバウハウスの本場としてグロピユースやノルの合理的な近代デザインが今もつて盛えているのがうかがえた。此の点いささかアメリカの近代デザインと共通な感覚を感じた。　現在のドイツのI.D.は過去に於て（現在も続いてはいるが）盛えた此の国の合理的近代スタイルを固持しているせいか，何となく見なれたものが多く，ハンドクラフト的な柔和なものに欠けているような気がする。しかし此のドイツの欠点とも見るべき感覚をおぎなう為か北欧南欧を問わず広く世界各国のグッドデザインを同時に展示しており此の点英国とは反対に自国の欠けた面は進んでおぎなおうとするドイツの合理性とも受け取れた。

又，Knall のショールーム（ドイツではノルと云わずクノールと云う）を見たが，ノルはアメリカと思つていた私達に「ノルはドイツのデザイナーでありその製品もドイツのものである。アメリカには単に輸出しているに過ぎぬ」と説明された。実際にクノールの家具工場でドイツ製品

も盛んに製産されているし，そのショールームも完備したものであつた。

5. 共催のI.D. デザイン展＝北欧四ケ国

北欧4国（ノルウエー，スエーデン，フインランド，デンマーク）の協同主催により9月1日をきして，オスロー，ストックホルム，ヘルシンキ，コペンハーゲンの4都市で開催されたI.D. デザインの展示運動である。4国が一丸となり，そのよいデザインを選び，各都市の指定会場（主にI.D. 関係の専門店のショールームやデザインセンター等国により様々）に展示して「北欧デザイン」を世界中に普及させるための大がかりなPR運動でもある。それ故その展示品はすべて共通のタイトルマークのもとで，価格も協定され共通の製品も見うけられた。各国共極めて盛大で一般市民も此の催しをよく理解し協力している。

私共は4都市を順次訪れ，それぞれその国の特色を持つた作品にも接し，国によるデザイン事情にも差異のある事を見聞し，これからの北欧デザインを研究する上に大変良い資料が得られた。

・**ノルウエー**のI.D. はやゝ粗朴荒けずりなものが多いが，それだけにその民族芸術的な個性がうかがわれ特に裂地関係によいものが多く，私共にデザインの素材的興味を感じさせてくれた。そしてフアニチヤー以外の室内装飾品（カーテン，しきもの，灰皿，ガラス製品等）にI.D. デザインの重点がおかれていた。ただ，所謂「北欧調のデザイン」という角度から見ると，ノルウエー的な民族臭が強すぎて，4国のうちでは最も劣る様である。この点

・**フインランド**のものはやゝ洗練され，フアニチヤー等はノルウエーにく

らべ格段の相異があり，国の産業である「輸出する北欧調デザイン」としてベットを始めすべてのインテリヤ製品のノックダウン方式が細かく巧妙に工夫され，輸出品としてのよい意味の研究意欲が見られ，ニューデザインも多数見受けられた。此の国で不思議に思つたのは，市内の新しいショッピングセンターやそこにあるレストラン，喫茶店更に自慢のニュータウンのアパート（２４階建屋上にむし風呂があるので有名）等すべてアメリカのハーマンミラーの家具を使用している事（他の３国では殆ど見受けない）で，自国のものはすべて輸出品と考えているのか（コスト的にはハーマンミラーの方がずつと安いことも知つた）此の点今もつて理解に苦しむ事である。

- ノルウエーとフインランドの中間にあり福祉国家として栄える**スエーデン**の視察はいろいろの意味で期待されるものがあり，又事実その通りであつた。此の国のデザインの中心をなすスベンカホルム（王立美術学校に併設されている）の視察は此の度の欧洲視察の中でイタリーと共に最も収獲の多いところであつた。ここのショールームはこの美術学校の教授がスエーデン全国よりグツドデザインのみを選定し展示されている。此の学校の建物自体が新しい近代建築で，その設備，内容共ヨーロツパ随一とも云われているだけに展示場もすべてＩ.Ｄ. 関係の作品が列んで居り，その一つ一つにデザイン的に伸び伸びとした気風を感じ，色彩等にも「しつとり」とした落ちつきといかにも近代デザインとしての洗練された明快さともいえるものを持つている。又展示されたものが最選されているせいか，どれもがレベル以上の作品であり「北欧デザインの最も秀れたもの」として受けとれた。そしてこれ等の作品の中に流れるデザイン的素地の中に吾々日本人の感情と共

鳴するものがあるのを発見した。此の国のデザインを見るとき「北欧調デザイン」の将来性と永続性を改めて感じさせられた。

・**デンマーク**は北欧デザインの本場として自他共に認めているところ，私共は此の国で最も新しく且北欧デザインの集大成とも見られるヤコブセンの設計したローヤルホテルに泊り，スワン，エッグチエアーで有名な此のホテルのインテリヤを実際に使用して調査すると共に有名なI.D. 関係の展示場であるデンパーマネンテ（Denpermanete）を始めインテリアを主に市内の展示場を多数見てその完成された本場の北欧調とも云えるものをあらゆる角度から観察した。ハンドクラフトの持ち味を充分に生かし，デザイン，工作すべて細部まで研究され，いずれも心にくい程配慮され，計算された作品であつた。ただ，どうしたものか，先に見たスエーデンのときと違い身にせまる感激がなかつた。余りにも洗練されすぎて，技巧的になり，デザイン的な伸びのない，ものたりなさを感じた。

これは今まで北欧調として写真等で見なれた作品が多い為とも思われた。私共だけでなく同行の者にも此の意見が多く「スエーデンで感激し，デンマークで失望した」というものすらあつた。しかし，その製品はやはり秀でたものであり写真では理解出来ぬ細部ディテールや工作上の手法等大変よい勉強になつた。

北欧4国のデザイン事情を要約すると，デンマークを中心として世界的に名を売つた北欧調デザインは，その国々の自己消費の為ではなく国の産業として輸出するもの，デンマークでは既に名実共に完成し，現在はスエーデンが最もこれに力を入れ，デンマークをしのぐ勢いをもつてデザイン研究をしている。フィンランド，ノルウエーは，デザ

イン国として意を注いではいるが，前２国にくらべると立ちおくれを感じ，いささか背のびしている様に見受けられた。私共の感じるままに申せば，スエーデンがこれからの北欧デザインの中心的存在となるのではなかろうかと思つた。

古代の姿をそのままに

北欧の古代村落

北欧の国々にはその国の祖先が生活した古代住居を復元し，特定の場所に集めた「古代村落」がある。敷地もかなり広くとり（デンマークルンビユーのものは２３万平方米とか）いずれも国の仕事として管理され，年代と共に変化した住居を昔のままの姿で大小数えきれぬほど建てられている。内部も全くその時代の家具調度が置かれ，古代の生活が眼前に展開されている様な雰囲気を史実にもとづき忠実に備えられている。又，国によつては，昔のコスチユームそのまゝの案内人が居たり，庭先でリンゴをもいでいる人々が単なる作業員ではなく，昔のまゝの姿で古代の道具を使用して演出を兼ねて仕事をしていた。これ等芸が細か過ぎて多少見せもの的にも思つたが，古代村落そのものは洵に内容の充実したものである。私共は此の古代村落には日本の桂離宮を見るような（これ程芸術的ではないが）古いものの中に必ず新しいデザインの素地があると思い，時間の許す限り見て廻つた。白壁づくりや，べん柄色の壁，そして草葺の屋根とその棟飾りなど，日本の大和や東北の民家によく似たものもあつた。小さな木製のスプーンから家具類又運搬に使用された荷車（大八車に似たものもあつた）等洵に素朴で美しい形態と心にしみる味わいを持ち，その大部分が木製品であつた。木を削り磨き上げるハンドクラフトの技術は遠い昔から

これ等の国々に培かわれていたものの様である。北欧の現在のI.D.製品が世界的なものとして開花し得た底には，永い歴史と伝統の中に人々の手から手へと受け継がれはぐくまれた優れた技術が存在していた事を知つた。そして北欧の国々が古代村落を大切に保存している理由も，何かわかる様な気がした。

ヨーロッパデザインの現況 -----結び

ヨーロッパを1ケ月に渡つて視察し深く感じた事は，私共がかつて学んだバウハウスを母体とするドイツや，ル・コルビジエを中心とするフランスの近代デザイン華やかな時代から見ると，現在のヨーロッパデザイン事情は大きく変つている事である。ドイツ，フランスを中心としたヨーロッパデザインはいつのまにか凋落し，大別して二つの新しいデザイン山脈とも云えるものが出来ている。一つは，イタリーを中心とするヨーロッパの香り高いデザインで多分に個性的且つ独創的なもの，これはイタリーを主としEECの自己消費のためのものともいえる。

もう一つは既に有名な北欧に起つた所謂北欧調デザインである。これはアメリカ等へ輸出する国際的な北欧産業として伸びて来たもの，アメリカのオートメ化された生活の中には，北欧のハンドワーク製品は心の糧ともなる和らかな人間性を呼び起すものとして好評を得たと思われる。此のアメリカ市場（勿論北欧以外のヨーロッパ諸国も大いに行き渡つている）を得た北欧デザインは，スカンジナビヤ4国で結束し毎年9月1日を期して「スカンジナビヤ工業デザイン展」を共催し価格協定までしてそのPRにつとめている。（現在北欧デザインの需

要は世界的にほう和点に近ずいて居り，即ち，輸出も横ばいになつている由）即ちあくまで輸出のためのデザインであり，これ等の国々の自己消費（使用）ではない。この点前者のイタリーデザインとの性格の相違がある。以上二つのヨーロッパに於けるデザイン活動は併存し乍ら今後も発展して行くものと思われる。

唯此のヨーロッパに於てもう一つ見のがせない事実がある。前にも北欧 I.D. の項で記したが，北欧調家具の一拠点とも見られるヘルシンキでアメリカのハーマンミラーの量産家具が多数その国の生活の為に使用されている事である。アメリカはハンドクラフトの北欧家具（コストも高い）を自国の生活に求め乍らその一方で量産家具（比較的にやすい）をヨーロッパに逆に売込んでいる。このハーマンミラーの売込みの中心はスイスである。スイスの街を歩いて時計の次に目立つものは，ハーマンミラーのショールームである。一ケ所ではなく至る所に出店がありその侵透力はすさまじいものがある。

ヨーロッパで最も各国人（特に有力者）の交流のはげしいスイスにそのＰＲの本拠を設けた事はうなずけることである（勿論パリ，ロンドンにもショールームはある）そして今や全ヨーロッパにハーマンミラーが進出している。

此のハーマンミラーに対しイタリーのオリベッティ（本来はタイプライター）がその特異のイタリースタイルで金属量産家具を（ハーマンミラーと違い机，廻転椅子等事務用家具が多い）つくり北欧にも進出しているが，数的には少なくハーマンミラーの比ではない。

以上のヨーロッパのデザイン事情，特にその家具について見るとき，今後の日本の家具事情にも新しい変化が起るのではなかろうか。ハン

ドワークの木工家具は次第にコスト高となり，日本の自己使用には適さなくなり（既に香港の安い工賃で出来る家具が問題になつて来ている）やがてアメリカのハーマンミラーの製品にコストが近ずけば，これが大量に日本の家具需要（事務用及び新しい住居用）を満すため入つて来るのではなかろうか。勿論日本の量産家具も次第に大メーカー（秋木，ナショナル）が手がけ始めてはいるが，そのデザイン，質に於いて又量についてもかなりのハンデがあると思われる。既にイタリーのオリベッティが新宿に日本の販売拠点を設け（現在はタイプライターが主）ているし，ハーマンミラーの進出も間近いという気がする。ヨーロッパと異なり家具販売を社会的に認められている日本のデパートは当然ヨーロッパに於けるスイスの様にそのＰＲと販売の拠りどころになるのではなかろうか。

デパートとして新しい時代の家具対策を充分に考慮しなければならぬ時期であることを痛感した次第である。

会員の近況

伊藤　得時　　浦賀造船工場を退社されました。

倉林益太郎（清水建設）　自宅住所が下記に変更しました。

世田谷区砧町３０８　清水建設アパート３６８

松浦　弾（フリー）パシフイツク．ハウス．ジヤパンを退社し新しく事務所を設けられました。

港区西久保桜川町１　第四森ビル４階　TEL（501）１８１０

松浦弾デザイン事務所

光藤　俊夫（竹中工務店）　朝日生命本社（新宿）家具設計，千葉大学講堂，川崎エトアール，東陶ビル，芝プリンスホテルなどのインテリア家具担当

中村　圭介（フリー）　ステレオファニチア．デザイン

白井　一朗（九州産工試）１１月上旬より１年間コロンボプランにより，セイロンに派遣され，家具デザイン並びに木工技術者の指導にあたられます。

川上　信二　　二年間室内及び家具デザイン勉学のため留学中ですが，その住所をお知らせします。

Shinji Kawakami

c/o Mrs Johnson

upplandgatan 81 Stockholm

内堀　繁生（西武デパート）　３６年４月より２年余り渡米し，７月に元気に帰国されました。勤務先及自宅住所は下記の通りです。

西武百貨店営業第四部　TEL（982）０１１１　内線３５３

サリーナー事務局　　TEL(983) 5134

自　宅　　練馬区向山町１６０６

編集後記

- 河内諒氏記念碑募金については，先々号でお知らせ致しましたが，１１月１０日にて当協会あつかいは〆切たいと思います。御寄付なさる方は至急お願い致します。
- 勤務先，自宅住所変更がありました折には当事務局にもお知らせ下さい。
- 月報に皆様方の文章を掲載したいと思います。

はりきつてどうぞ！

日本室内設計家協会東京支部

東京都港区芝田村町5の15　今成ビル内

ＴＥＬ（431）4903

振　替　東　京　76389